

# 県民の森だより 7 2019 月号



宮城県の大型ヤマノモリ展開催中  
中央記念館展示ホール 8/31 まで

**発行** 宮城県 県民の森管理事務所 TEL&FAX 022-255-8801  
〒981-0121 宮城県宮城郡利府町神谷沢字菅野沢 41  
(指定管理者) 特定非営利活動法人 宮城県森林インストラクター協会

入園料：無料  
利用時間：4月～10月/9時～16時30分  
11月～3月/9時～16時

梅雨明けが待ち遠しい毎日ですが、『アジサイ』は花盛りで深緑の園内を明るく彩っています。今月の 20 日過ぎには、『ヤマユリ』も開花の時期を迎え、次第に香りを強く漂わせるようになれば満開となります。更に『ネムノキ』も続けばよいよ梅雨明けです。その前に、梅雨の晴れ間の静かな園内を散策されては如何でしょうか。(所長：蜂谷仁)



## 遊歩道等の刈払作業が始まっております

四季の森・保全林等の園内遊歩道等の刈払機による草刈り作業が始まっております。安全には十分配慮しておりますが、近づくと思わぬ事故に巻き込まれる可能性があります。作業をお見かけの際は、くれぐれも近づかないようご注意ください。



## 今年もやります！「県民の森夏まつり」

8月11日(日)10:00～15:00、中央記念館と芝生広場を会場に、山の日特別企画「県民の森夏まつり」を開催します！(雨天決行)

夏ならではの水てっぽう・水ぶえなどの涼しげなネイチャークラフトや、竹水ようかんづくり体験、ザリガニ釣り体験など、楽しいイベント盛りだくさんです。みなさまどうぞお問い合わせの上、ご来園下さい！



## 今月のけんみんのもり写真館 スタッフが見つけたしぜんのはなとこま



ハンゲショウ (ドクダミ科)  
半夏生

名前は、半分化粧をしているように見えることから「半化粧」と書いたものが、その後、雑節の一つ「半夏生」の頃(7月2日頃)に葉が白くなることから「半夏生」となりました。別名は「片白草」。蕾がついてひも状の花穂が出ないと葉が白くなりません。(駒野)



ワルナスビ (ナス科)  
悪茄子

名前は刺が多く、始末に困る害草であることにより。明治初年に牧草種子とともに渡来した帰化植物です。茎や葉の裏に鋭い刺があり厄介な植物です。花はアメジスト色をした、星型の、美しい花を咲かせますがうっかり手を伸ばすと大変なことになります。(駒野)



ブタナ (キク科)  
豚菜

名前はフランスで「ブタのサラダ」と呼ばれていたのを直訳したものです。命名が二つあります。1930年代に札幌でタンポポモドキ。神戸ではブタナと名付けました。帰化植物で葉はロゼット状、花はタンポポに似ていますが花茎の高さ 50 cm 以上にもなります。(駒野)



ケンボナシ (クロウメモドキ科)  
玄圃梨

名前は梨の味がし熟した果柄をテンポ(手棒)とみなしてついたといわれています。花は淡緑色で小さく、散房花序に多数つきます。果実は球形で毛がなく、花序の柄は果期に肥厚、屈曲し肉質の棒状になり、甘みがあり食べられます。二日酔いに薬効があるそうです。(駒野)

## 県民の森名木紹介 vol.56 イヌザクラ

ソメイヨシノが満開で、そのすぐ隣にあって樹形もそっくりなのになぜか花の気配を全く感じさせない一本のさくらが目にとまりました。

イヌザクラでした。花は、ウワミスザクラ形のいわゆる試験管ブラシのような形で、5月初旬に咲きます。目立たないため人目を引く事は殆どなく地味な存在ですが、れっきとした桜の仲間です。2号幹線と青麻神社方面道の交差点近くにあり。来春、目を凝らしてご覧いただきたくお勧めいたします。(工藤)



シロオビアワフキ (アワフキムシ科)

アワフキムシ類の幼虫は、植物から栄養分を吸収して、排泄物を泡立たせて写真のような巣を作ります。泡の中の空気が断熱材の役割となって、雨風や外気の変化から身を守り、幼虫は中で快適に過ごし成虫になることができます。(入岡)



胸脚  
腹脚

青少年の森にて、つばらな瞳のかわいい幼虫を発見。これはハバチの幼虫で(名称は不明)、チョウやガの幼虫は胸脚(前の三対)の後ろの腹脚が最大で四対ですが、ハバチの仲間は必ず五対以上になります。(入岡)

イベントのスケジュールなどは裏面「7月・8月のイベント情報」をご覧ください